

NIT

NISSEKI TOKYO

2016
Autumn
Vol.11

世界のために、できること

赤十字の国際活動



Contents

- 04 平成28年度 救護訓練報告
- 06 れっどくろす News&Topics
- 特集**
08 **世界のために、できること**
— 赤十字の国際活動 —
- 16 **想像力を広げるために“種”をまく**
— 「伝える」ということ。
インタビュー フォトジャーナリスト 安田 菜津紀さん
- 20 NT Information
- 21 Hospital Referral
武蔵野赤十字病院／大森赤十字病院／葛飾赤十字産院
- 24 献血 NEWS
- 25 福祉施設 NEWS
武蔵野赤十字保育園／赤十字子供の家
- 26 行け！OLレポーター オカモト★ 日赤とつげきレポ 一日赤講習会編—
- 29 活動資金協力者(社)・団体ご紹介
- 30 Rediscovery TOKYO — 第4回 あきる野市・秋川溪谷—

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

第52回献血運動推進全国大会(2016年7月7日開催)
に先立ち、東京都赤十字血液センターでの小学生の
献血セミナーをご視察される日本赤十字社名誉副
総裁の皇太子殿下

総括メッセージ



災害時の対応能力を身につける “はじめての一步”に

東京都支部 救護係長
越後 隆

日赤の職員であれば誰でも救護業務に携わる可能性があるため、私たち東京都支部では、全職員がこの災害救護基礎訓練を受けます。基礎訓練では幅広く全般的な内容を学びますが、まずは「災害時に自分は赤十字職員として、こういう事をやるんだな」と理解することが大切。その後、フォローアップ訓練やこころのケア研修などで救護員としてのステップアップを図ります。初めて体験することが多かったと思いますが、積極的に学ぶ姿勢が仲間としても頼もしく感じました。今回の基礎訓練が、職員一人ひとりの災害対応能力を身につける“はじめての一步”になってくれればと思います。



傷病者の状態を観察しながら担架搬送。「大丈夫ですか？」などと声をかけ続けることも大切

と声をかけてもらったときはホッとしました。担架で運ばれるときも、救護員役のみなさんのキビキビとした動作に、基礎訓練の内容がきちんと身につけていることを実感しました。

テレビ取材のレポーターも「真剣な様子が伝わってきた」

総合演習時には東京M×テレビの取材が入り、ケガ人役で参加したレポーターの方が、救護員による搬送後「職員の真剣な様子が伝わってきました。搬送中は、手当しても

らえるという安心感もありました」とレポートしてくれました。

繰り返し学ぶことが必要と実感

基礎訓練に参加した武蔵野赤十字病院の助産師、佐々木かおりさんは「総合演習では頭と行動がまったく伴わず、繰り返し学習や復習が必要だと実感しました。災害時は臨機応変な行動が求められますね。講義で救援の経験者から具体的な話が聞けたのも良かったです。こうした話と訓練を自分の中

で結びつけられればいいと思います」と感想を語りました。

東京都赤十字血液センターの上原美奈さんは、ふだん移動献血の仕事をしているためテントを張るのは慣れているものの「それ以外は勉強することばかりでした。いざという時に役に立つには「日々の積み重ねが大切だと実感した」とのこと。「いまの業務に直接関係はなくても、災害時には救護員としてしっかりと役に立ちたいですね」。

（訓練の様子は、東京M×テレビ8月19日「東京インフォメーション 夏特集」で放映されました）

首都直下地震を想定 11月には歌舞伎町で災害救護訓練を実施

東京都支部では11月3、4日の2日間、新宿区歌舞伎町を会場にして第2ブロック支部※1災害救護訓練を実施します。職員、ボランティアなど約300人が参加する予定です。

中小の雑居ビルが密集し、外からの来訪者が大半を占める歌舞伎町。通常の訓練のような広い場所とは違い、避難場所が少ないという悪条件の中、首都直下地

震対応計画に基づく訓練を行い、より具体的な受援計画※2に反映させます。訓練の様子は、次号NT（2017年1月号）でお伝えします！

※1 第2ブロック支部…茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・山梨各都県の支部で構成。

※2 受援計画…支援を受け入れるための計画。今回の救護訓練を通じて、より都市型災害の実態に即した受援計画の策定をめざしている。



災害救護基礎訓練で総合演習

いざという時、救う人になるために

災害救護基礎訓練で学ぶこと

1日目

- ・赤十字の災害救護活動について
- ・規律行動訓練
- ・テント等の取り扱い

2日目

- ・炊出し釜の取り扱い
- ・ロープワーク
- ・炊き出し実習
- ・無線通信演習
- ・衛星電話の取り扱い

3日目

- ・医療救護のあり方
- ・トリアージについて
- ・応急手当、搬送

4日目

- ・大型テントの取り扱い
- ・救護活動の実際 ― 熊本地震災害での救護班の動き
- ・災害救護総合演習

赤十字の職員は就業規則で、災害発生時には救護業務に携わることが規定されています。赤十字の職員であれば、災害時には誰でも救護活動に携わる可能性があるのです。そのため、東京都支部では毎年、災害救護基礎訓練を実施しており、今年は6月23、24、30日、7月1日の4日にわたり開催されました。都内の各赤十字施設で働く職員約30人が参加したほか、その様子を伝えるため、NT編集部も最終日の総合演習に加わりました。

本番さながらの緊迫感！

東京都支部で

マグニチュード7.3を想定

4日にわたる訓練の集大成が、最終日に実施される総合演習です。今回は、東京都支部を震源とするマグニチュード7.3、震度6の強い地震が発生したと想定。東京都支部のある新宿区周辺でもライフラインがすべて途絶、負傷者が多数発生し、救護班が到着するまで応急救護所で負傷者の手当

にあたりました。

総合演習にケガ人役で参加

参加者たちは、基礎訓練で学んだことを生かしテント設置や負傷者のトリアージ（搬送や治療の優先順位を決めること）を行うとともに、三角巾を使った応急手当や担架での搬送を実施しました。

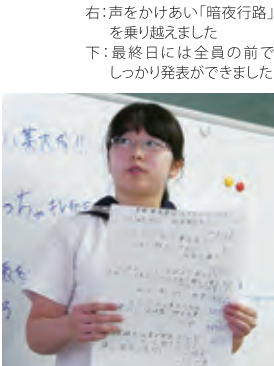
NT編集部もケガ人役として参加。大ケガをした想定で横たわっている間はとても不安で、「大丈夫ですか？ 名前は言えますか？」

100人以上の児童生徒が参加 リーダーシップ・トレセン

8月2～5日の4日間、「高尾の森わくわくビレッジ」で都内青少年赤十字加盟校の小中高校生104人が参加して、リーダーシップ・トレーニングセンター（トレセン）が開催されました。集団生活を通してリーダーを養成することを目的に、ベテラン教員らがスタッフとなり赤十字独自のプログラムを実施しています。

参加者は、非常炊き出しや救急法、福祉体験、国際理解プログラムなどを体験。国際理解プログラムでは、ネパールでの活動経験がある日赤職員から国際救援活動についての話を聞き、自分が派遣職員となる模擬体験も。赤十字の原則である「中立」や「独立」を守ることが、苦しんでいる人を救うことにつながると学びました。

メインイベントのフィールドワークは、トレセンを通じて学んだことを生かし、メンバー



右：声をかけあい「暗夜行路」を乗り越えました
下：最終日には全員の前でしっかり発表ができました



全員で協力しないと突破できません。視界が閉ざされた状態でロープを頼りに障害物を避けつつゴールをめざす「暗夜行路」では、「前が見えなくて怖かったけれど、声をかけ合って進めた」と、メンバーの絆が深まりました。

今年参加できなかったみなさんは、来年8月に高尾でお会いしましょう！



小中高のメンバーで一緒に作ったカレーは最高！

いざという時に備えよう 合同防災訓練に参加

9月4日、時折雨が降るなか平成28年度東京都・葛飾区・墨田区合同総合防災訓練が水元公園（葛飾区）や東京スカイツリー（墨田区）などのエリアで実施されました。

訓練の目的は、都民一人ひとりが「自らの身の安全を自ら守る」ための行動を考え、防災に関する意識の高揚をはかることと、都民を救援する防災関係機関の相互連携を強化することです。第37回目の今回は、地元住民や関係機関の職員など約7,000人が参加しま



訓練前のブリーフィングでは真剣な顔が並びます



ボランティアと合同で炊き出しの準備を進めます

した。関係機関の一員として参加した東京都支部も、救護ボランティアや地元高校生ボランティアの協力を得ながら、傷病者の搬送を含む医療救護活動や、自衛隊と合同での炊き出し食の提供（約1600食）などを行いました。首都直下地震は今後30年以内に70%の確率で発生と言われていています。東京都支部では、そのような「いざという時」のために日々備えています。

慶應大に学生赤十字奉仕団が誕生 学習支援活動などに取り組む

7月29日、慶應義塾大学学生赤十字奉仕団の結団式が行われました。今春の東京都聖栄大学学生赤十字奉仕団に続く学生奉仕団の誕生で、都内で16団目となります。

澤茉莉委員長は、「周りの協力のおかげで結団式を迎えることができました。このつながりを大切にし、奉仕団が発展していくように頑張ります」と決意を語りました。今後は、小中学生向けの学習支援活動などに取り組む予定です。



結団した奉仕団の皆さん（前列4人）と東京都支部職員

周産期医療の中核病院として 葛飾赤十字産院が移転建替え



7月25日、移転建替に係る基本協定を葛飾区と締結
（左）三石院長 （右）青木葛飾区長

7月25日、葛飾赤十字産院は、葛飾区と移転建替に関する基本協定を締結しました。葛飾赤十字産院は、葛飾区や近隣地区における母子医療の中核を担い、葛飾区民の出生数の4分の1以上を扱っています。昭和28（1953）年の開設以来60年以上が経つことから、新病院の建設が決まりました。

移転先は、葛飾区新宿三丁目にある「新宿図書センター」及び「道路補修課・道路保全事務所」の敷地で、現在地の立石から北東に

約2.6km。最寄り駅・JR金町駅周辺は、再開発が進む地域です。

新病院は、現在の診療機能を維持・発展させ、新たなニーズにも対応。医療機関（医師）向けのセミオープンシステムの実施、助産院（開業助産師）向けのオープン・セミオープンシステムの拡充、NICU（新生児特定集中治療室）における退院支援も拡充し地域連携を強化します。さらに、社会的ハイリスク妊産婦への妊娠・出産・子育て支援も充実させます。平成30年から着工し、平成33年に開院の予定です。地域のみなさまのご理解・ご協力をお願いいたします。

新旧病院の比較		
	整備前	整備後(案)
所在地	葛飾区立石5-11-12・2	葛飾区新宿3-7-1・2
敷地面積	3,798.99㎡	6,671.84㎡
延床面積	6,193.59㎡ (救護倉庫含む)	8,600㎡ (救護倉庫・共用部分含む)
診療科数	3科 (産科・婦人科・小児科)	3科 (産科・婦人科・小児科)

義援金と救援金を受付中 イタリア地震と台風10号で



岩手県内の避難所に物資を運び込む日赤救護班

8月24日に発生したイタリア地震と、岩手県や北海道に大きな被害をもたらした台風10号で被災された方々のために、日本赤十字社は義援金・救援金を受け付けています。みなさまの温かいご支援をお願いいたします。

- 平成28年台風10号等災害義援金
受付期間：2016年9月5日（月）～10月31日（月）
- 2016年イタリア中部地震救援金
募集期間：2016年8月30日（火）～11月30日（水）

大切な人のいのちを守りたい 一次救命処置の内容がリニューアル

日本赤十字社は、新たな内容の「一次救命処置」講習を7月1日から全国で実施しています。

一次救命処置は、心肺蘇生（胸骨圧迫と人工呼吸）やAEDによる電気ショックなど、心臓や呼吸が停止した人の命を救う応急手当。その内容は、「JRC蘇生ガイドライン」（監修：日本蘇生協議会）に準拠しています。同ガイドラインが新しくなったことから、講習内容もそれに合わせてリニューアル。より学びやすくなりました。

- ＜新ガイドラインの主な特徴＞
 - 心停止の予防に重点
 - 心停止の判断に自信が持てなくても、ただちに手当を開始すべきことの強調
 - 乳幼児の一次救命処置の手順が成人と共通に
- 講習会の詳しい情報はHPをご覧ください。

シリア難民の流入続くギリシャ 武蔵野赤十字病院医師が報告



国際赤十字は、シリア難民の流入が続くギリシャ難民キャンプで支援活動を展開しています。7月8日～8月31日の約2か月間、医療・保健チームの一員として派遣されていた武蔵野赤十字病院の中司峰生医師が、9月7日に同病院で開かれた帰国報告会で現状を報告しました。

中司医師は、ドイツ・フィンランドの赤十字社による医療・保健チームに参加。「日本人・ドイツ人・フィンランド人という外国人が、外国（ギリシャ）で外国人（シリア人など）を支援する難しさを感じた」と語りました。



左：派遣先の一つ、ネオカバラ難民キャンプ ©IFRC
右：派遣された中司医師（左） ©JRCS

同時に、「難民となった人々は、国境を抜けられないために皆、かなりのストレスを抱えている。そうしたなかでも赤十字が活動が続けることで、悲惨な状況を防ぐことに寄与できていると感じた」とも。赤十字の取り組みが難民の人々の苦痛軽減につながっている様子を伝えました。

赤十字の国際活動については、P8～の特集も合わせてご覧ください。

日本赤十字社では「中東人道危機救援金」を募集中です。みなさまのご協力をお願いします。詳しくは下記URLまで。

<http://www.jrc.or.jp/contribute/help/cat751/>

特集

世界のために、できること

—赤十字の国際活動—

今年5月、トルコのイスタンブールで初めて開催された世界人道サミットでは、紛争の激化や気候変動による自然災害の悪化、急速に進む人口増加や深刻な貧困により、世界中で1億3,000万人もの人々が支援を必要としていると発表されました。一方、支援に必要な財源を確保できないことも一因となり、そうした人々のニーズに十分にこたえることができていない現状があります。

毎年12月に行われる「NHK海外たすけあいキャンペーン」は今年で34年目になります。今号では、赤十字の「苦しんでいる人を救いたい。」という思いとそれを実践する人々の活動を集めました。そこから、わたしたちが世界のために何ができるのかを考えます。

ギリシャのヘルソス難民キャンプにて。国際赤十字が難民支援のために展開しているERUに、東京の赤十字スタッフが派遣された。このキャンプには約3,900人が暮らし、うち約70%が女性と子ども。1日平均65人が診療に訪れる。

©Mirva Helenius / Finnish Red Cross

Q4 支援の開始と終了は、
どうやって決めるの？

A
支援国のアピールによって決まります。

災害救護（緊急救援、復興支援）の場合、開始も終了も支援を受ける国の意思表示で決まります。支援が始まるときは、災害や紛争時、「もう自国の力だけでは無理。助けて！」とアピールすると、国際赤十字・赤新月社連盟（赤十字の国際組織）で調整



1997年から15年間にベトナムで防波林として植えられたマングローブ植林地帯。支援は今も続いている

Q5 現地ではどのように活動すすめているの？

A
主役は、あくまでも現地の赤十字社。

基本的には現地赤十字社が中心となって活動を行います。そうすることで、現地のニーズに合った“小回りの利く”支援ができるからです。各国赤十字間や他の支援団体と活動が重ならないよう調整することも大切。ここでもやはり、現地に赤十字社があるから迅速で確実な対応ができます。現地職員による“ローカル情報”が、支援に役立つことは多いので

が行われ、各国赤十字社に協力要請が来ます。終了の場合も同様。支援を受けていた国が「終息宣言」を出します。その後は、世界各国からの海外救援金を元手に復興支援事業を展開していきます。

開発協力の場合は、支援を受ける国が求めるプログラムと、支援を提供したい国のプログラムのマッチングを行います。開発協力は息の長い支援になります。5年や10年は珍しくなく、ベトナムでは日本赤十字社が20年間も支援を続けています。長期的な支援の強みは、人材育成ができること。現地職員やボランティアに寄り添って事業を進められるので、知識や技術、考え方も習得してもらえます。支援を始めたときは新人職員でも、20年も経つと部下を統括する立場になり、その人がまた自国の職員を教育していく。支援を受ける国が自立することが何よりも重要で、そのサポートが私たちの仕事です。



インドネシア派遣時、現地赤十字社の職員と

すよ。文化はもちろん国ごとに違いがありますが、それほど違いを感じることはありませんね。相手も同じ人間ですから。国や人種、宗教の違いにかかわらず、一人ひとりに寄り添った支援ができるよう心がけています。



日本での研修にはアジア圏の職員も参加し全てのカリキュラムが英語。派遣を想定したフィールドワークを通し積極的に学ぶ

Q3 どのような人が、
どんな支援をしているの？

A
英語力は必須。
研修によって育成されます。

日本赤十字社の職員が国際支援活動に派遣されるには、いくつかの研修を受ける必要があります。英語力は必須。訓練された専門家と資機材を整備している赤十字独自の緊急対応ユニット（Emergency Response Unit=ERU）の要員になるための訓練もあります。ERUは世界規模で整備されており、各国赤十字社が緊急事態に備えています。また、日本は基礎保健ユニット、アメリカはIT通信機器ユニット、というように得意分野で役割分担されていて、大規模な災害等が起きた際には、各国のユニットが現地に集結し、連携しながら包括的な支援にあたります。

また、他国のERUに日赤職員が参加したり日赤のERUに他国赤十字職員が加わることも。柔軟性を持って対応できるのも、世界中に赤十字があり、それを統括する組織（国際赤十字・赤新月連盟）があるからこそです。

派遣される要員は基本的には募集して決めますが、指名で決めることもあり、ケースごとにさまざまです。



災害時の緊急支援・復興支援。ギリシャにおけるシリア難民の救助活動を行う赤十字ボランティア



災害や疾病への対応能力の強化（開発協力）



国際人道法の普及や離散家族への支援。8年ぶりの再会を果たした家族（リベリア）

Q2 国際支援活動って、
遠い国の話ですよね…？

A
日本が外国から支援を受けたことも。

外国での活動は、あまり身近に感じられませんか？ 2011年の東日本大震災の際には、約100の国が日本赤十字社に対して約1,000億円（代金相当額含む）の支援を寄せてくれました。この時、私は派遣職員としてインドネシア赤十字社（以下、インドネシア赤）にいたのですが、被害の情報が入ってくるとすぐに、インドネシア赤の同僚から「すぐにでも日本に医療チームを派遣したい」と相談がありました。実際に、インドネシア政府が派遣した医療班のメンバーとして、インドネシア赤の医師と看護師が東北に来てくれました。

歴史を遡れば、1923（大正12）年の関東大震災のときも、日本は世界の赤十字社から多大な支援を受けました。そう考

Q1 赤十字の国際支援活動って、
どんなことをしているの？

A
大きく分けて3つの柱があります。

赤十字は世界最大の人道機関で、190の国と地域に赤十字社があります。日本赤十字社も、そのネットワークのひとつ。この世界的なネットワークを生かし、各国の赤十字社同士で連携を図りながら支援活動を行っています。活動の種類は大きく3つ。災害時の緊急支援・復興支援、災害や疾病への対応能力の強化（開発協力）、国際人道法の普及や離散家族への支援。どの活動も、基本的には支援先の国の赤十字社との協同で行います。赤十字の支援の最大の特徴は、現地赤十字社に復興や開発のノウハウを伝えること。支援が終わっても元の状態には戻らず、その国が自立するための支援をしていることです。

えると、少しは身近に感じられるでしょう？ 困った時はお互いさま。地理的には遠くても、赤十字というつながりを通じて助け合い、「苦しんでいる人を救う」ための活動が、今日も世界のどこかで行われています。



東日本大震災から2か月後、支援国の赤十字関係者が復興計画策定のため来日し、現地中学生とも交流

日本国内にとどまらず、海外でも支援活動を行う赤十字。赤十字の国際支援活動の仕組みは、どうなっているのでしょうか？ 日本赤十字社国際部開発協力課の辻佳輝課長に聞きました。



国際部開発協力課
辻佳輝 課長
Yoshiteru Tsuji

日本赤十字社 事業局 国際部 開発協力課長。国連職員として難民保護に携った経験をもとに、2008年入社。現在は開発協力課長として、日赤が行う国際支援の開発協力事業を総括している。

赤十字の国際支援活動の仕組み



現地で日本の職員はどう働いている？

実際に赤十字の職員は、現地でどのように支援活動をし、生活を送っているのでしょうか。緊急救援で過去3回の海外派遣経験のある武蔵野赤十字病院の人事課・青木達矢係長に、支援活動中における現地での生活について聞きました。



2015年に起きたネパール地震の際に、共に支援活動をしたメンバーたちとの1枚。青木係長は「事務管理要員」として参加

自分はチームの活動を支える
“裏方”

——実際の青木係長の活動はどんな様子なのでしょうか？

私が緊急救援活動に参加するときは、チームの中の「事務管理要員」という役割。医師や看護師などを含めた医療・保健チームの仕事をサポートするのが仕事です。現地の赤十字社や日赤本社との連絡調整、現地スタッフの人材管理、車両の運行管理や資金・資機材管理、活動の報告をまとめることなどなど。チームがしつかりと活動できるように支える“裏方”ですね。現地で活動するための基盤をつくるのが役割だと考えています。



武蔵野赤十字病院
人事課
青木達矢 係長
Tatsuya Aoki

——現地との調整はどのようにすすめているのですか？

赤十字の強みは理念や志を同じくする仲間たち。赤十字社のスタッフ・ボランティアが世界各国にいるということです。そんな仲間たちをサポートし、一緒に被災された方々に支援の手を差し伸べるのが私たちの仕事です。支援に行く先には必ず地元赤十字社があり、普段からその国の人道支援活動に携わっているのです。土地勘や文化・風習に詳しくない外国から来たチームにとってはとても心強い存在です。

2015年のネパール地震では、ケーシーというネパール人スタッフが私たちを全力でサポートしてくれました。日赤は開発協力の分野で長くネパールを支援しており、その時の日赤の派遣職員がケーシーを紹介してくれました。ケーシーは私たちと寝食を共にしながら、必要な人材を集めたり、地元コミュニティとの橋渡しをしてくれました。私たちの支援はモノではなく、人から人に提供されるものに、現地のこととは現地の人にしかわかりません。ネパールではいまだにカースト制度が社会慣習として残っていますが、ケー



ネパール人スタッフのケーシーと。儀式のときに額に塗る「ティカ」で別れを惜しんでくれた

うには、どうすればいいでしょう？

私自身は、何事も“自分事”として捉えることが重要だと思っていて、実際に現地に行っていない人に、どうやって自分事として捉えてもらえるかを考えながら、体験を伝えています。講演のときは、日本国内でも多発している災害と重ねあわせて「あなただったらどうしますか？」と聴衆のみなさんに問いかけています。

自分が被災者だったら、逆に支援する人だったら、あるいはケーシーのような現地スタッフだったら…。現地の話を伝えることで、「自分だったら」と考えてもらうきっかけがつけられればいいと思います。

こころのケアの一環として設置したチャイルドフrendリースペースで、青木係長が書いたドラえもんが大人気に！



震災で親を亡くした子どもたちと。子どもが元気になると、大人も元気になる。「その笑顔のために、活動していますね」と青木係長

——言葉の壁を感じることはありますか？

基本的に現地では英語ですが、英語がすぐくままっていて大変なこと（笑）。英語が通じない場合は、英語ができる現地の通訳を介してコミュニケーションを図りま

す。緊急救援では、災害で傷ついたり大切な人を亡くしたりした方に「こころのケア」も行いますが、通訳者を介したケアはとても難しい。言葉の違いでニュアンスがうまく伝わらず、苦戦することもあります。

フィリピン台風ときには、フィリピン赤十字社から来た通訳のできるボランティアの看護師を介して現地の方々の「こころのケア」を実施したのですが、この看護師たちがとても素晴らしく、日赤

の臨床心理士と一体となったケアができていました。

世界中に
親友ができますよ！

——国際活動に参加を続けているのはなぜですか？

世界中に友達ができることが一番の理由でしょうか。先ほどのフィリピン赤十字社のボランティア看護師とも現地でもとても親しくなり、「bottle」って日本語で何ていうの？と聞かれたので「アニキだよ！」と教えて以来、私のことをずっと「アニキ」と呼んで慕ってくれます（笑）。ネパールのケーシーも、国際活動で出会った大事な友達の人。私は彼の人柄に本当に感動して、自分の息子に「景志」という名前を付けたほど。ネパール地震のあとも、日赤が支援した地域で、日本人の名前を付けるのが流行ったようです。支援を通じて尊敬する人に出会えることは、厳しい任務に対する何よりのご褒美ですね。

自分だったら、どうする？

——国際活動を身近に感じてもらう



災害時の助け合いはお互いさま

中国・黒龍江省と日本の架け橋に (一社) 在日黒龍江省同郷会

私たち同郷会には、日本で暮らす中国・黒龍江省出身者、約2,000人が加入しています。事務所があるのは東京都新宿区。東京都支部のすぐ近くです。会員同士の交流がメインで、忘年会や新年会、お花見などを開催。行事の際にはゴミ拾いのボランティアにも取り組むなど、皆、社会貢献にも意欲を持っています。また、中国出身者がスムーズに日本社会に溶け込めるよう、日本のルールや文化を伝えることも大事な役割だと思っています。



↑ (一社) 在日黒龍江省同郷会 王 宝利 (おう ほうり) 会長



↑ 夏に開催した BBQ 大会。イベントにはたくさんのメンバーが集まる

熊本地震で募金活動

今年の4月、熊本地震が起きてすぐに、会員に募金を呼びかけました。

100万円を超す募金が集まりましたが、赤十字に寄付しようと思ったのは、真っ先に四川大地震 (2008年) の時の記憶がよみがえったからです。日本赤十字社による救援の様子をテレビで見て、とても感動しました。いま思い出しても、胸が熱くなります。そのことを会の皆に話すと、皆も当時のことが記憶にあり、赤十字に寄付することに快く同意してくれました。

災害は、いつどこで起きるかわかりません。国、民族の違いも関係なく襲ってきます。それに、人類は皆、兄弟。国や民族の違いを超えて助け合える活動を、今後も続けていきたいと思っています。



↑ イベントの際にはゴミ拾いなどのボランティアも。皆てきぱきと動いてくれる

← 飲食店などを経営する会員は、店内に募金箱を設置。会員には寄付を求めるチラシを作り、197人から寄付が集まった

(一社) 在日黒龍江省同郷会様は、日本赤十字社の活動をご理解くださり、熊本地震の義援金ではなく日赤の活動資金としてご寄付くださいました。



東京から、世界とつながる

日本赤十字社の国際活動は、職員を海外に派遣して行う支援だけではありません。世界の仲間と交流することで異文化を学ぶことも国際活動の一つ。また、海外から日本に来て暮らす人々も、赤十字の取り組みに参加したり、応援してくれています。東京から世界へ。世界から東京へ。赤十字の活動は国境を越えてつながっています。

共通の目標があるから、
学ぶことがたくさん！
ソウル・北京・東京のメンバーが交流

※ JRC…青少年赤十字 (Junior Red Cross の略称)

東京都支部では2001年から大韓赤十字社ソウル特別市支社 (韓国) と北京市紅十字会 (中国) との間で、情報交換と交流を目的とした事業を展開しています。

国ごとの活動の違いに
刺激を受けました

今年の JRC 三首都交流事業は7月25日から30日までの6日間、北京で開催されました。各国の活動について情報交換をしたり、北京市紅十字会情報プラザで災害について学びました。3か国の JRC 活動は、「苦しんでいる人を救う」という赤十字の理念のもとで取り組まれています。北京市紅十字会は救命救急に力を入れており、北京市内に130か所の救急対策ステーションを設置してい



ソウルのメンバーのベストには活動の“証し”がぎっしり！

ます。交通の要所ごとに救急車を配備し、いざという時は現場から一番近い救急車が直行することから、なんと3分以内に現場に到着できるとか！
大韓赤十字社ソウル特別市支社は、活動の種類が多く、「1バッジ1アクション (one badge, one action)」といって、活動することによってその証しとしてベストにバッジが増えていくそうです。このほか、1人暮らしのお年寄りに手作りのパンを届けるなど、地域とのつながりを深めるために JRC メンバーが役立っているケースも。日本のメンバーも、多くの刺激を受けて帰ってきました。



04 別れのとき。同じ目標をもって活動している仲間と出会えたことは、この先一生の宝物。帰りのバスでは3か国語で歌える歌を探し、「きらきらぼし」を歌った



03 各国の活動内容を発表して情報交換。皆、真剣に耳を傾ける。はじめは「人前で話すのが苦手」と話していたメンバーも、積極的に他国メンバーと交流している姿に成長を感じられた



02 応急手当コンテストの様子。日赤での救急法は三角巾を使ったものが多いのに対し、中国では包帯を使用するなどの違いも



01 北京市紅十字会救急救命センターにて。救急ヘリに積み込む資材や、緊急時に「40分で300人分の食事」が用意できる車両を見学。参加者は「防災意識がとても高いと感じた」

JRC 三首都交流事業 in 北京

エイズに苦しむ子どもたちや難民生活を送る人々など、社会の中で声をあげることが難しい人々の目線から現実を伝え続けているフォトジャーナリストの安田菜津紀さんに、世界各地に足を運んでいる安田さんに、国際的な活動に関わるきっかけや思い、写真で伝えたいことなどについて話を聞きました。

聞き手…NT編集部



Natsuki Yasuda

1987年神奈川県生まれ。studio AFTERMODE 所属。カンボジアや東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害をテーマに取材を続けている。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に被災地を記録。2012年、「HIVと共に生まれる〜ウガンダのエイズ孤児たち〜」で第8回名取洋之助写真賞受賞。著書に『それでも、海へ 陸前高田に生きる』（ポプラ社）、『君とまた、あの場所へ シリア難民の明日』（新潮社）、共著に『ファインダー越しの3.11』（原書房）など。TBS「サンデーモーニング」コメンテーターも務める。



2009年撮影 内戦前、カシオン山から眺めたシリア首都ダマスカス ©Natsuki Yasuda/studioAFTERMODE

想像力を広げるために「種」をまく
——「伝える」ということ。

インタビュー▼フォトジャーナリスト 安田菜津紀さん



1



2



3

1 カンボジア、プレイベン州。村の夕暮れ 2 イラク北部、クルド人自治区。シリアから逃れている難民の家族にこの日、新しい命が誕生した（写真1、2＝©Natsuki Yasuda/studioAFTER-MODE） 3 ヨルダン北部、ザータリ難民キャンプ取材中（提供：国境なき子どもたち）

安田菜津紀さんも参加！

NHK 海外たすけあい 2016

NTファンミーティングクロストークライブ2

～国際情勢に気づき、考えるきっかけを～

日 時：12月3日（土）14：00～15：30
会 場：イトーキ東京イノベーションセンター
SYNQA 2階セミナールーム
主 催：日本赤十字社東京都支部
協 賛：東京キリンビバレッジサービス(株)
ゲストコメン：フォトジャーナリスト
テーター 安田菜津紀さん
観 覧 申 込：入場無料。詳細はp.20のポストカードをご覧ください。

——国際支援活動にかかる姿勢については、「人情」と「人道」を例えて、「知っている人を助けたいと思うのが人情。知らない人のこと、嫌いな人も助けるのが人道」と例えたりしますが、どのように思われますか？

例えば、シリア難民のアブドゥラくんという「人」を知ることによって、シリア問題の背景も知りたくなる。人情の先に人道があるのかもしれないね。

——「人情」の先に「人道」がある

——国境なき子どもたち……1997年に日本で誕生したNGO。カンボジアとフィリピンで自立支援施設を運営し、ストリートチルドレンや人身売買の被害などに遭った青少年に、教育や職業訓練の機会を提供している。

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある



——「人情」の先に「人道」がある

——「人情」の先に「人道」がある

12月に「NHK海外たすけあい」キャンペーンを実施します



©IFRC

「NHK海外たすけあい」は紛争や災害、病気などで苦しむ人々を救うため、日本赤十字社が毎年NHKと共同で12月1日～25日の間に全国で実施しているキャンペーンです。みなさまからお寄せいただいた寄付金は、今号NTで紹介したような、紛争で苦しむ人々への支援、災害で苦しむ人々への支援、病气から身を守るための支援となります。みなさまのあたたかいご協力を、よろしく願います。

誌面へのご意見・ご感想を
お待ちしております！

ハガキ：
〒169-8540
新宿区大久保 1-2-15 NT 編集部あて
メール：
nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

お寄せいただきましたご意見ご感想は、個人が特定できないように配慮したうえで当支部が行う広報活動に活用させていただきます場合があります。（本ページへの掲載等）

③

日赤LEDライト

加藤良子（新宿区）
金子幸司（福生市）
田中真利（船橋市）
今泉優美（大田区）
和田恵理子（町田市）
浅田夏樹（調布市）
木田明男（飯能市）
小林純一（練馬区）
向井知恵子（中野区）
原澤理枝（葛飾区）

②

アサヒおいしい水プラス
「カルピス」の乳酸菌

吉竹琴水（三鷹市）
東海林由美（目黒区）
河合彩（豊島区）
松本卓矢（埼玉県朝霞市）
藤屋恭華（板橋区）

①

ビオアランチー
（植物性サプリメント）

石田あい子（小金井市）
大久保晶子（神奈川県相模原市）
水谷容子（江戸川区）
浅川南（練馬区）
高山直人（小平市）

前号のプレゼント当選者

NT
NISSEKI TOKYO

Vol.11 2016年10月発行



日本赤十字社キャラクター
ハート・ラズル

■発行・編集・デザイン / 日本赤十字社東京都支部
〒169-8540 新宿区大久保 1-2-15
Tel:03-5273-6747（総務部企画課直通）

※本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転写（コピー）、複製（転載）を禁じます。

※本誌に掲載されている情報は、発行に伴う情報収集時点での情報を含みます。その後内容に変更が生じる場合もありますので予めご了承ください。

ホームページ：<http://www.tokyo.jrc.or.jp/>

Facebook：<https://www.facebook.com/redcrosstokyo>

NTは年4回発行（4月・7月・10月・1月）

日本赤十字社東京都支部にご寄付いただいた方に郵送でお届けしているほか、都内の赤十字病産院及び献血ルーム・献血バス等の献血会場でも配布しています。

今号の表紙



イラク北部、クルド人自治区。ISの手を逃れ、避難生活を送るヤズディ教徒の子どもたち。

写真：©Natsuki Yasuda / studioAFTERMODE

武蔵野赤十字病院

■所在地 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町 1-26-1
 ■連絡先 Tel 0422-32-3111 (代表) Fax 0422-32-3525
 ■休診日 土曜、日曜、祝日、5月1日(赤十字創立記念日)、年末年始
 ■病床数 611床(一般528床、ICU 8床、HCU 22床、CCU 6床、SCU 9床、NICU 6床、GCU 12床、感染症 20床)

看護部 看護師長
 ET 看護師
 がん化学療法看護 CEN
古澤 恭子
 Furusawa Kyoko



近年、増え続けているがん患者。2015年にがんになった人は約98万人と報告されており、いまや国民の2人に1人がかかる“国民病”となっています。

がんになっても1人じゃない！

医師と専門の看護師たちが支えます

国は、2007年に施行された「がん対策基本法」にもとづき、がん予防やがん医療の進歩に向けて取り組んでいます。武蔵野赤十字病院は、基本法の「質の高いがん診療を提供する病院(がん診療連携拠点病院)」として指定を受け、多くのがん患者さんに高度な医療を提供しています。

今年3月に

「がん看護外来」を設置

がん闘病中は、患者さんとご家族が、ともに不安や恐怖を抱えます。がんと告知されたときから、「なぜ自分ががんになったのか」「今の治療でよいのか」「これからどうなるのか」など、さまざまな感情と葛藤しつつ、治療方針などについて、多くの情報の中から自身で決めていなくてはなりません。さらに、がんになったことで人生設計の修正が必要になることもあります。

このような思いを抱えながら、人と闘っている患者さんとご家族を支援するため、当院では今年3

月から「がん看護外来」を始めました。がんに関する知識やがん看護の経験を多く持つ6人の専門の看護師が患者さんの思いを聞きながら、治療方針などについてどうすればいいか一緒に考え、医師との面談にも同席して、患者さんとともに情報の整理をしています。

こうした取り組みを通じて、少しでも患者さんの不安を軽減したいと考えています。患者さんの思いを語る場所として、ぜひご利用ください。

患者さんを支え、 ともにがんと闘う

がん看護外来を開設してから、1か月あたり40〜50人の支援を行っています。患者さんからの「気持ちがいそがしくなりました」「相談してよかった」という言葉に支えられながら、武蔵野赤十字病院ではこれからも、医師が質の高いがん治療を提供し、看護師が患者さんの治療を支えるという「両輪」で、患者さんやご家族を支えていきます。



がんの知識や看護経験豊富な専門の看護師たち



患者さんのお話を丁寧に聞く古澤看護師長

大森赤十字病院

■所在地 〒143-8527 東京都大田区中央4-30-1
 ■連絡先 Tel 03-3775-3111 (代表) Fax 03-3776-0004
 ■休診日 土曜 日曜 祝日 年末年始 (急患は随時)
 ■病床数 344床 (一般326床 ICU CCU 6床 HCU 12床)

大森赤十字病院は、多くの方に糖尿病について知っていただき、糖尿病の予防や快適な糖尿病療養生活に生かしていただけるよう、毎年11月にイベントを開催しています。

糖尿病を知って、考える

11月14日は世界糖尿病デー

国際糖尿病連合（IDF）と世界保健機関（WHO）は1991年、世界に広がる糖尿病の脅威に対応しようと、11月14日を「世界糖尿病デー」に制定。2006年12月20日に国連から公式に認定されました。

なぜ、11月14日なのか？

どうして11月14日なのでしょう？
 実は、インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日が11月14日であり、この画期的な発見に敬意を表して、この日が選ばれたのです。毎年この日は、世界中で糖尿病啓発キャンペーンが展開され、日本では財団法人日本糖尿病協会が主体となり、この日を含む1週間を全国糖尿病週間として啓蒙活動を行っています。

当院でも全国糖尿病週間に合わせて、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師、理学療法士などをつくる糖尿病チームが連携してみなさんに知っていただきたい知識をまとめたポスターを展示したり、その場ですぐわかる血糖測定

管理栄養士からのワンポイントアドバイスコーナー、講堂での公開講座などを行っています。

例年、1週間で約500人もの方々が来場されますが、なかでも血糖測定はわずかな血液から、数秒で値がわかり、その数値を元にアドバイスがもらえることから、来場者に好評です。

患者さんの伴走者でありたい

糖尿病は長くつきあう病気であり、上手につきあっていくことが大切。そのお手伝いをするのが、私たち大森赤十字病院の役割であり、私たち糖尿病チームは、患者さん一人一人の伴走者でありたいと考えています。

そんな思いを胸に、今年は11月14日（月）～18日（金）、講堂前にブースを設置してイベントを行う予定です。18日（金）14時～15時30分には、講堂で「糖尿病について知ろう 予防と最新の治療について」とのテーマで公開講座も。是非、お越しください。職員一同、お待ちしております！



血糖測定から、生活習慣のアドバイスをを行います



糖尿病の知識や療養指導経験豊富な“精鋭”たち

葛飾赤十字産院

■所在地 〒124-0012 東京都葛飾区立石5-11-12
 ■連絡先 Tel 03-3693-5211 (代表) Fax 03-3776-0004
 ■休診日 日曜、祝日、年末年始
 ■病床数 113床(産婦人科68床、NICU・GCU等45床)

葛飾赤十字産院では、妊産婦の健康改善や母子の栄養改善を目的とする海外からの研修生を受け入れています。

安心して出産できる世界に

海外研修生ワークショップ開催

平成20年度から27年度までに受け入れた研修生は185人。平成28年度は43人を受け入れます。

NGOジョイセフのワークショップ

当院では、開発途上国の女性と命と健康を守る活動に取り組んでいる日本生まれのNGOジョイセフ(JOICFP)が実施しているワークショップに協力しています。

ジョイセフによると、世界では今なお、妊娠や出産が原因で命を落とす女性が1日あたり約800人、年間で28万9000人にのぼります(「ジョイセフ年次報告書2014」より)。その99%は途上国の女性たちです。

妊産婦の死亡率減少をめざし、途上国の保健省や公衆衛生省から派遣された研修生が日本に1か月滞在して、妊産婦の健康改善などについて学びます。

当院で受け入れている研修の内容としては、妊産婦の継続的ケア(産前産後の健診や入院中のケ

ア)、両親学級の実施・運営、地域拠点病院としての役割、院内の研修や新入職員に対するキャリアアップ支援カリキュラムについて——などがあります。

各国の母子保健向上が願い

研修生からは、「スタッフのチームビルディング(新人をチームで育てていく仕組み)が重視されていたのが印象的。また、スタッフが自分の能力を活かしてステップアップしていくシステムがあった」「葛飾赤十字産院の若い有能な助産師のみなさんにお会いすることができて感激した。助産師ならではの活動をしっかりと見据え、自国に帰っても産む人に寄り添った助産ケアを展開していきたい」などの感想が寄せられました。研修生たちが日本の母子保健についての情報を持ち帰ることで、各国における母子保健分野の活動に貢献できることを願い、当院では今後もこの活動を継続していく予定です。



研修生のみなさんと。今年度は17カ国から受け入れます



当院でのお産の様子をまとめたDVDを観てディスカッションする研修生たち

武蔵野赤十字保育園

赤十字子供の家

たからをさがせ！
まつ・たけ 探検隊

武蔵野赤十字保育園では7月15・16日、まつ組19人、たけ組19人の計38人の5歳児で合宿を行いました。保育園に宿泊することで親から離れ、自分の力で生活をやりきる事を経験し、自信をつけることを目的にしています。子どもたち一人ひとりが友達と力を合わせて楽しく過ごせるよう、各家庭と保育園とで協力して計画を進めてきました。

友達と支え合いながら

今年の合宿では、絵本の世界から「探検」を知り、宝の地図を手に入れて、実際に園内を探検し、自分たちの力で宝物を見つけました。雨の中、自分の宝物となる「葉っぱ」を探してきて「葉っぱスタンプ」を作り、それをオリジナルのキーホルダーにしました。

夜は2階奥の保育室へ「勇気の鈴」を取りに行く冒険も。怖かったけれど、友達と支え合いながら、暗がりの中でも頑張りました。

翌朝の両親のお迎えでは、合宿を乗り越えた自信あふれる顔で、お家へ帰っていきました。この合宿で友達の大切さや心地よさを実感し、本当の宝物は何かに気づいてくれたことでしょう。



葉っぱスタンプを作る子どもたち



自分で巻いた手巻きずしを「いただきまーす！」



「ちびっこ建機フェア」に
大興奮



ブルドーザーのデモンストレーションは大迫力

建機との綱引きにも挑戦



「赤十字子供の家」は、さまざまな理由から家庭での生活が困難な子どもたちを養育している児童養護施設です。

こうした子どもたちの「夏休みの思い出に」と、建設機械の販売を手がける日本キャタピラーが8月9日、子どもたちを「ちびっこ建機フェア」に招待しました。今回の企画は同社がCSR活動として毎年取り組んでいる企画です。

大型ダンプの試乗体験も

子どもたちは、建機のデモンストレーション、油圧ショベルとの綱引きや現車見学、ダンプの試乗を体験。初めて見る建機の迫力に大きな声援を送っていました。

建機との綱引きは、子どもたちの大勝利！建機に触れる機会もあり、運転席に乗り込んで写真を撮ったり、ショベルの中に入ったり。いつもは絵本でしか見ることのない建機を実感でき、夢中になって楽しみました。大型ダンプの試乗体験も、「大きくて楽しかった」と興奮しきり。

社会に出て自立することが困難な時代ですが、こうした多くの体験は子どもたちの将来のプラスになるに違いありません。

WELFARE
FACILITY
NEWS

次世代へ伝える「いのちと献血」

血液センターのお仕事体験

BLOOD
PROGRAM
NEWS



「しらべる」
(血液の検査)



「わける」
(血液製剤の製造)

東京都赤十字血液センターでは、血液のことをもっと身近に感じてもらうと、血液センターのお仕事を疑似体験できるプログラムを実施しています。今年も、8月に東京国際フォーラム（千代田区）で開催されたイベント「丸の内キッズジャンボリー」に参加し、小学生と見学者（保護者・未就学児）あわせて701人に参加いただきました。

命のつながりを体感

プログラムの名称は「つながるいのちのちのち」。献血からはじまる命のつながりを「お仕事体験」を通じて体感してもらおうプログラムです。参加した小学生は、白衣と帽子を着用して赤十字職員になり、本物そっくりの血液を検査したり（しらべる）、遠心分離機や血液の模型を使って血液を分離する（わける）仕事をしました。病院に血液を搬送する（とどける）仕事の体験でも、実際の業務と同じようにヘルメットを着用しました。最後に、輸血を受けた子どもたちの体験やメッセージを集めた映像を鑑賞。今日届けた血液によって「命をつなぐ」ことができたという想いを皆で体感しました。



将来は「いのち」を守る仕事に

3日間、計12回実施したプログラムの中で、ひときわ目を輝かせて参加してくれていた小学3年生の久永美織さんは、「お仕事体験ができて楽しかった〜！」と満面の笑みで感想を話してくれました。「大きくなったら献血したい」と言ってくれた美織さん。「注射は大丈夫？」と聞いたところ、「人のためになりたい。痛くても大丈夫！」と力強く答えてくれました。将来は、献血バスや救急車など、人のいのちを守る現場で働きたいとのこと。

「娘の希望で申し込みました」という母親の和子さんも、子どもの頃に輸血を受けた経験があるそうです。「娘が大きくなったらぜひ、献血してもらいたいですね」と語ってくれました。



当日参加してくれた久永さん親子

日赤の開催する講習会にお邪魔
してきました！今回はなんと 高校生
たちと一緒に！20才の私は 預け込
むことが出来るのか？それ気になる
講習会の内容とは... 皆さんも参加
したつもりでおつき合い下さいませ！



行け！ OLポタオタ★日赤とけきレポ

- Vol.5 日赤講習会編 -



場所は
新宿の
日赤東京
支部！

② 救急法 基礎楚 講習

まず自分自身の
安全をすること！

いかにいかに
くたした入はくん

何事も
安全が第一！

バザーと相棒！
お互いの安全を確認する
方法なのだ。

オース！

バザーと相棒！
いっしょーい！

ふくまで
援助が来たら
「どう」なのかな



AED実習！ 焦らずマラソンの指示に 従おう！



救急法はアキバと！
ビュン！
アキバと！



おしゃべりな
おしゃべりな
おしゃべりな

おしゃべりな
おしゃべりな
おしゃべりな

① 災害時 高齢者 生活支援講習

災害時は 日用品を活用しよう！

タオルも工夫ひとつでお風呂
気分！



簡易足湯
給水口には
湯が注がれるので



体をふいて
清潔に！

約100ccの
お湯で1枚分のポタオタが完了！

歩ける着る毛布をつくらう！



暑くない全身
あったかい毛布に
手足は自由に
動かす！

HOW TO?

③ 健康生活 支援講習

高齢者との
向き合い方を考えよう！



車椅子の構造を知ろう！



安全に
操作しよう！

必要以上に手を
出さず、
出来ない所への
援助か...か！



ベッドでの介助を学ぶ！



重くない足だけ
お手伝いするのね！

取材に快く応じて下さった
高校生のみなさん、
指導員のみなさん、
ありがとうございました！

おしゃべりな
おしゃべりな
おしゃべりな

水上安全法や
火の安全法
など...

こういう講習を通して、
高校生たちに互助の心の
種をまく、こそステキ...

おしゃべりな
おしゃべりな
おしゃべりな



Let's
アタマ！

END

P resent

今号のプレゼントをご紹介します。
日本赤十字社東京都支部への協賛企業によりご提供いただいています。※
みなさまからのご応募、お待ちしております！

※ Aのプレゼントのみ

A.



555ml 24本入り
5名様

麒麟 生茶

●東京麒麟ビバレッジサービス株式会社

「緑茶を変えたい」という想いから、緑茶の飲み方や日常生活の中の緑茶のあるシーンを変え、少し心豊かで、上質な生活にしてくれる未来のGreen Teaを目指しました。

B.



10名様

日赤LEDライト

いざというときの防災に役立つLEDライト。手回しとソーラーパネルでの蓄電、2パターンの使用が可能です。

プレゼント応募方法

①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④年齢 ⑤連絡先 ⑥本誌入手場所 ⑦本誌の感想(100文字程度) ⑧希望するプレゼント番号を明記し、はがきまたはメールで下記までご応募ください。抽選でプレゼントが当たります！ 締切は2016年12月31日。当選者は次号誌面で発表します。

■件名には「プレゼント応募」とご記入ください。

はがき ▶ 〒169-8540

東京都新宿区大久保1-2-15 NT編集部あて

メール ▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からの連絡のみに使用します。
※お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえで当支部が行う広報に活用させていただく場合があります。

協賛品募集中！ お問い合わせは ▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

読者の声 (vol.10)



熊 本地震災害の特集に心を打たれました。自分に何ができるか、考えるばかりでした。エコノミー症候群のストックキングなど、知らないことも。難しく考えすぎず、熊本のものをこれからも買っていこうと思いました。

荒川区・56歳・女性(町内会の回覧板)

バックナンバーはこちら
<http://www.tokyo.jrc.or.jp/kohoshi/index.html>

「O NE STEP」が印象的でした。私も先日初めて献血呼びかけに参加したばかり。小さいことでもいい。できる事をやっていきたい。 日野市・70歳・女性(地域奉仕団)

赤 十字の活躍状況がわかりやすく書いてあり、大変参考になりました。とつげきレポもおもしろおかしく書いてあり、読んでいて笑ってしまいました。

足立区・62歳・女性(新宿東口献血ルーム)

※()はNTの入手場所

赤十字は、 ジミチです。

「赤十字の活動は広すぎてわかりづらい。」
と言われることがあります。

赤十字の活動は、国や状況、理由、活動の種類を
限定しません。対象は全世界の苦しむ人々です。

確かに、エリアや対象となる人々を限定して緊急性
を訴えるほうが社会の目に届きやすく、理解され
やすいかもしれません。

しかし、赤十字は世界最大の人道機関。

その組織力があるからこそできることがあります。

緊急時の支援は当然のこと、すべての脅威から
人々を守るために全世界で活動しています。

もちろん、国内でも医療や献血、そして大災害に
対する取り組みなど、皆さまの身近なところで
活動しています。

命を守るために必要であれば、スポットライトが
当たることのないジミチな活動も大切にする。

これが赤十字のジミチです。

—— 皆さまからお寄せいただく活動資金はこのようなところでも活用されています。——

例えば、

シリアでは、家を失った人々の生活のために、
5,000円で5人家族1か月分の食糧を配布できます



5人家族1か月分の食糧
(お米・砂糖・豆・ツナ缶などの食糧セット)



2011年から紛争状態が続くシリア。シリア赤新月社は
食料や日用品の配布で市民生活を支えています。

ジミチな活動が、必ず命を守ることにつながる。この思いを大切にしています。

活動資金協力者(社)・団体のご紹介

皆様のご協力により日本赤十字社の活動は支えられています。
活動資金のご協力、誠にありがとうございました。

※10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了承いただいた個人、法人および団体等を掲載しています。

活動資金強 lựcに関するお問合せは
東京都支部 振興課 03-5273-6743まで

●千代田区		(株)青春出版社	10万円	鈴木 勇	20万円
ELGC(株)	247万8000円	(株)東陽工業	10万円	中里建設(株)	10万円
(株)木村洋行	50万円	●文京区		(株)江北ゴム製作所	10万円
大作商事(株)	50万円	根津 博俊	10万円	●葛飾区	
(株)朝日写真ニュース社	30万円	(株)加藤萬製作所	20万円	石川生コン(株)	30万円
宝田無線電機(株)	30万円	(株)アークステーション	10万円	(有)アビコネジ	10万円
(株)ケアネット	20万226円	トリヤマ(株)	10万円	(株)衛生微生物研究センター	10万円
旭日興産(株)	10万円	●台東区		神田製作所 八親会 会津 和俊	10万円
ウェブスペース(株)	10万円	(宗) 円光寺	10万円	●江戸川区	
(一財) 大妻コタカ記念会	10万円	(宗) 龍泉寺	10万円	(有)石塚哲央商店	10万円
ケイラインシッピングマネージメント(株)	10万円	●墨田区		関東商事(株)	10万円
(株)谷口楽器	10万円	アサヒ飲料(株)	22万9195円	(株)三和製作所	10万円
中日マテリアル(株)	10万円	●江東区		(株)水域ネットワーク	10万円
(株)ニッセーデリカ	10万円	北島 松太郎	40万円	(株)大栄住宅販売	10万円
日本ノーデン(株)	10万円	(株)システック	1000万円	(有)中代経営	10万円
●中央区		(株)秋朝工業所	10万円	●立川市	
山戸田 浩一	50万円	●品川区		中村建設(株)	50万円
田村 市兵衛	10万円	長谷川 植夫・長谷川 裕見	10万円	●青梅市	
(株)アジアマリンファーム	10万円	●大田区		片山 宗弘	100万円
(宗) 玉円寺	10万円	(一社) 大森倶楽部	100万円	片山 恵利	50万円
スタッフナインハット(株)	10万円	(株)三功工業所	100万円	片山 晋	50万円
日本カーボン(株)	10万円	(株)高梨油気圧	10万円	●昭島市	
●港区		●世田谷区		小山 善治	10万円
木村 真一	50万円	五束 純	100万円	●調布市	
佐野 信次	50万円	高橋 隆	10万円	ユウキフーツシステム(株)	30万円
三橋 七郎	10万円	田代 博一	10万円	●町田市	
イーパートナーズ(株)	30万円	●渋谷区		神蔵 嘉一	100万円
フィナンシャル・デザイン(株)	20万円	(有)外川ビル	50万円	社会福祉法人蓮倫会小山保育園	10万円
ケイワイトレード(株)	10万円	●中野区		●小金井市	
全日本空輸(株)	10万円	樋口 盛一	50万円	匿名	300万円
(株)テレビ東京	10万円	(株)TOPANGA	117万6309円	●国分寺市	
ファミリー物産(株)	10万円	●杉並区		北崎 孝雄	10万円
(株)プライム・オリジンズ	10万円	外川 清	50万円	●国立市	
●新宿区		人仁の会	136万3,708円	保科 寛之	20万円
出井 弘八	10万円	●豊島区		国立せきやビル	10万円
小沢 勇夫	10万円	住友機材(株)	30万	グリーンリサイクル株式会社	10万円
(株)アイザワビルサービス	345万円	●荒川区		●西東京市	
(株)OEC	100万円	根津鋼材(株)	100万円	ムサシノ製薬(株)	10万円
(株)プライム涌光	100万円	(株)トリガ	20万円	●清瀬市	
(株)STAYERホールディングス	50万円	(株)美箔ワタナベ	20万円	(株)アーダブレイン	20万2507円
(株)メジカルビュー社	33万530円	明德貿易(株)	10万円	●多摩市	
(株)セノン	30万円	●板橋区		柚木ミエ子	12万円
ロード・ジャパン・インク	25万円	(有)エヌティ・エイト	10万円	●西多摩郡	
zineen	11万円	●足立区		久間 美智恵	20万円
(株)マーケティングアプリケーションズ	10万6600円	赤時 明美	30万円	●神奈川県	
(株)ケイブラン	10万円	荒木 秀子	22万円	河崎 房江	10万円

(敬称略)

Rediscovery TOKYO

東京を、再発見しよう



「ここから都内に通勤している人も結構いるんですよ」という言葉に、思わずこの土地での生活を思い浮かべつつ、電車で揺られて東へと帰った。



+ 東京観光写真倶楽部 TOKYO SIGHTSEEING PHOTO CLUB

写真とはまさに「光を観ること」。東京を＜観光＞しながら撮影を楽しむことを目的とし、2005年に発足した同倶楽部は、東京諸島を含む都内各地で撮影会を開催している。部長を務めるのは、日本赤十字社専属カメラマンである菅原一剛氏。東京の写真を撮り続けている同倶楽部とコラボレーションした連載が、Rediscovery TOKYOです。

菅原一剛 HP <http://ichigosugawara.com> 東京観光写真倶楽部 <http://tokyophoto.ne.jp>



第4回 あきる野市・秋川溪谷

新宿駅から特別快速に乗って1時間余り。JR武蔵五日市駅がこの日の観光のスタート地点。多摩川の支流の中でも最大といわれる秋川。この辺りまで来ると、いつものことながら「東京は広い」と思う。その川面に反射してキラキラとまばゆい光、たわわに実った柿や柚子、風にそよぐススキや秋桜の花…真夏の強烈な陽射しのあとにやってくるホッとするような秋の光と、そのすべてに寄り添う地元の方々の暮らしを垣間見させてもらった一日だった。



わたしの一歩

ONE STEP

Vol.
02

よし お か こ の え
吉岡 薫衣

Profile ● Konoe Yoshioka

東京都立国際高校3年生。所属する国際ボランティア同好会では事実上の「赤十字担当」としてメンバーに赤十字のことを伝えている。

隣の人を知ることから国際活動は始まる。

私 はインドネシアで生まれ、東京都立国際高校に進学するまでインドネシアで暮らしていました。中学校のクラブ活動でJRC（青少年赤十字）に入り、部長を務めていました。インドネシア赤十字社主催のJRC全国大会にバリ州代表団として参加したことも。いまは国際ボランティア同好会に所属し、JRCの活動に参加しています。今年の夏は三首都交流事業や模擬連盟総会に参加して、海外の仲間たちと人道問題について考えました。

このように自己紹介すると国際活動に

熱心と感じられるかもしれませんが、私自身は、国際活動は異文化を理解することから始まるので、個人同士のお付き合いに似ていると思っています。

そう考えるようになったきっかけは、高校の「異文化理解」の授業。「異文化理解とは、ほかの国の文化を知ることだけでなく、隣に座っている友達を知ることとも異文化理解」と教わりました。それは、食べ物美味しく、素敵な服を着ていることを知っても、その人を理解したことはならないのに似ています。外

国についても同じで、表面的な部分だけを見るのではなく、一歩踏み込んで理解することが大切。これは国際活動の際に必要な視点だと思います。そして、国境を超えなくても、日本にいながらでも国際活動を始めることはできます。

私の夢は、日本で学んだ技能や知識をもとに、インドネシアで衛生指導などに参加すること。インドネシアの一部では、保健・医療環境がまだ整っていないのです。自分自身が両国の架け橋になれば嬉しいですね。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

東京都支部

〒169-8540 東京都新宿区大久保1丁目2番15号

TEL 03-5273-6741 (代表) FAX 03-5273-6749 <http://www.tokyo.jrc.or.jp>